

## 米国 前月から改善も消費者マインドは低水準のまま(10年8月消費者マインド動向)

発表日: 2010年8月31日(火)

～個人消費の緩やかな拡大を示す水準～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

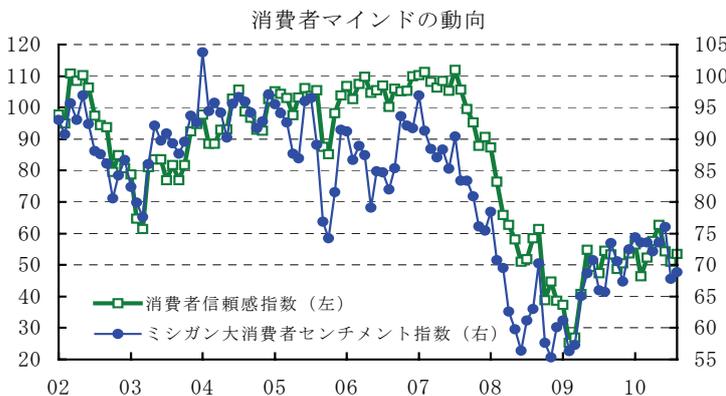
03-5221-5001

8月はCB消費者信頼感が前月比+2.5ポイント、ミシガン大センチが同+1.1ポイント、ABC信頼感が同+1.5ポイント改善

8月の消費者マインド統計では、CB消費者信頼感指数が53.5(前月51.0)と市場予想の50.7への悪化に反し前月比2.5ポイント上昇した。株価の下落などを受け7月に過度に強まった景気、所得、雇用の先行きに対する懸念が弱まり、マインド統計は前月から上昇した。他の調査をみても、ミシガン大学消費者センチメントが68.9(7月67.8、6月76.0、5月73.6)、ABC消費者信頼感が▲45.3(7月▲46.8、6月▲42.8、5月▲45.0)と改善、8月の個人消費が拡大していることを示唆している。もっとも、全ての消費者マインド調査の水準が、失業率の高止まりなど足下の厳しい雇用情勢を背景に低い水準にとどまっており、個人消費の緩やかな拡大を示している。

市場予想に反して改善したCB消費者信頼感指数発表直後の市場の反応をみると、債券市場で10年債利回りは上昇した。株価指数も上昇。為替市場では、ドルが対円、対ユーロで強含んだが、米国での金融緩和期待は変わらず一時的な動きとなった。

今後、景気の緩やかな回復が続く中、雇用の回復ペースの鈍さなどを背景に、現状指数は小幅上昇にとどまり低水準で推移すると見込まれる。一方、期待指数は景気減速を受け緩やかに低下すると予想される。このため、消費者マインドは現在の低い水準で推移すると予想され、個人消費は緩やかな拡大を続けると見込まれる。



(出所) 米商務省、CB

### 消費者信頼感 (Consumer Confidence)

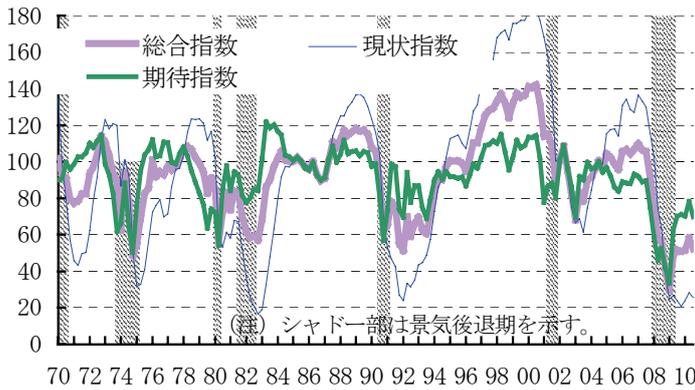
	消費者信頼感指数			雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
		期待指数	現状指数	充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状	
10/01	56.5	77.3	25.2	4.4	46.5	20.7	12.7	5.2	2.4	74.4	70.1	81.1
10/02	46.4	62.9	21.7	4.0	47.3	16.1	15.9	5.3	2.7	73.6	68.4	81.8
10/03	52.3	70.4	25.2	4.0	46.3	18.0	13.6	3.9	2.8	73.6	67.9	82.4
10/04	57.7	77.4	28.2	4.7	44.8	19.7	12.4	5.4	2.1	72.2	66.5	81.0
10/05	62.7	84.6	29.8	4.6	43.9	22.8	11.9	6.0	2.1	73.6	68.8	81.0
10/06	54.3	72.7	26.8	4.3	43.5	17.1	13.9	4.1	2.0	76.0	69.8	85.6
10/07	51.0	67.5	26.4	4.4	45.1	15.8	15.3	4.7	1.9	67.8	62.3	76.5
10/08	53.5	72.5	24.9	3.8	45.7	17.0	13.4	5.0	2.0	68.9	62.9	78.3

(出所) The Conference Board, University of Michigan

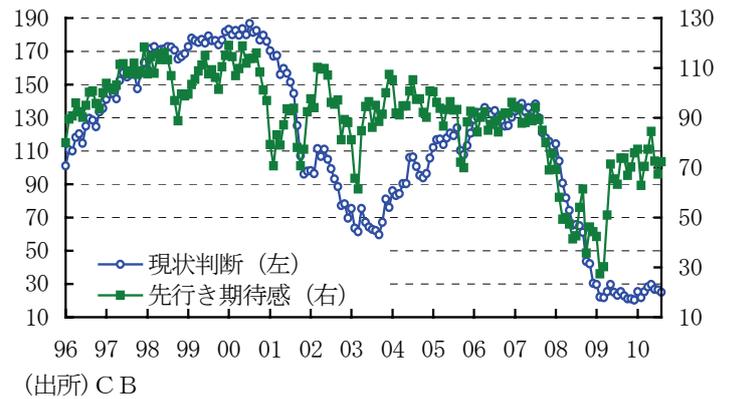
(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

消費者信頼感指数の推移(四半期)



消費者信頼感指数の推移



**現状指数が前月比▲1.5p低下、期待指数が同+5.0p上昇**

内訳では、現状指数が前月比▲1.5ポイント低下した一方、期待指数が同+5.0ポイント上昇した。現状指数は、足下の雇用の回復ペースの鈍さが影響した。一方、期待指数は景気の先行きに対する楽観的な見方が小幅強まり、雇用の先行きと所得の先行きに対する悲観的な見方が弱まったため上昇した。

**現状判断では「雇用」がマイナス幅を拡大**

現状指数の構成項目では、「景気」がマイナス幅を縮小したが、「雇用」がマイナス幅を拡大し現状指数全体は悪化した。詳細をみると、現在の景気に対する悲観的な見方が小幅弱まった【現在の景気に対する判断の「良い」-「悪い」が▲33.2と前月の▲34.5からマイナス幅を縮小した】。一方、現在の雇用環境に対する悲観的な見方は強まった【現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が▲41.9と前月の▲40.7からマイナス幅を拡大】。現在の雇用機会に対する判断（「充分」-「困難」）が、大幅なマイナス水準にとどまっていること等から、8月の失業率は9.5%と前月と変わらず高止まりが予想される。

**期待では「景気」がプラス幅を拡大し、「雇用」、「収入」がマイナス幅を縮小**

期待指数の構成項目では、「景気」がプラス幅を拡大し、「雇用」、「収入」がマイナス幅を縮小したため、期待指数全体は大幅に改善した。詳細をみると、景気の先行きに対する楽観的な見方が強まった【6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が+3.6と前月の+0.5からプラス幅を拡大した】。さらに、雇用の先行きに対する悲観的な見方が弱まった【6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が▲4.8と前月の▲6.7からマイナス幅縮小】。先行きの収入については悲観的な見方が弱まった【6ヵ月後の収入が「増加する」-「減少する」が▲5.5と前月の▲7.1からマイナス幅を縮小】。

**インフレ見通しは高止まり、株価見通しは悲観的な見方を弱めた**

インフレに関する調査では、インフレ見通しは8月に4.9%（前月4.9%）と高止まりしている。また、1年後の金利見通しは景気の先行きに対する楽観的な見方が強まったものの小幅であり、金利が上昇するとの見方は前月から低下した。一方、株価の先行きに対して上昇するとの見方が増加し下落するとの見方が減少しており、消費を下支えする要因となろう。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。